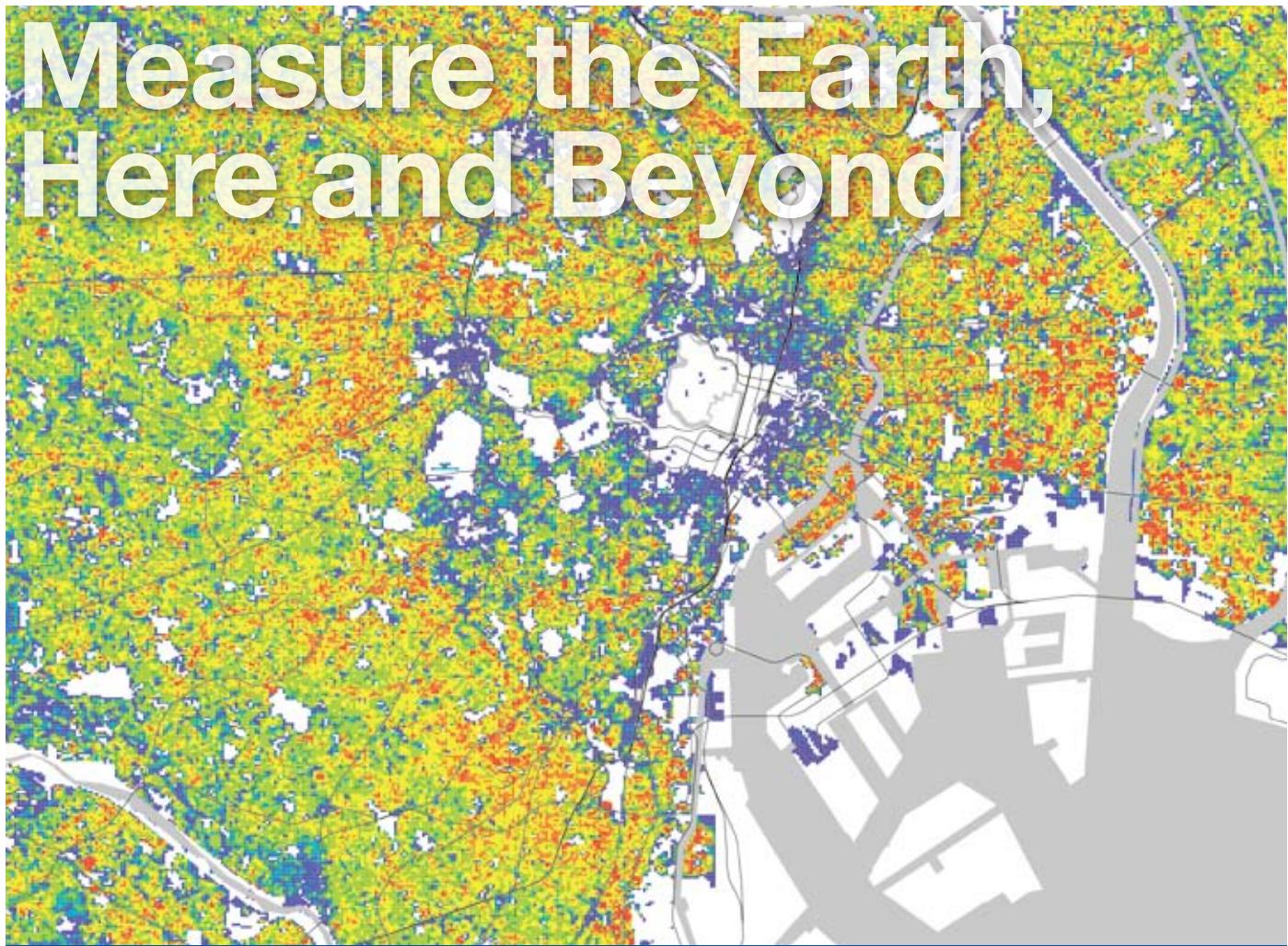


# Measure the Earth, Here and Beyond



第61期中間

## 株主通信

2008.4.1～9.30

### Contents

株主の皆さまへ:トップインタビュー	1
ニーズの先取りで新たな展開:公共部門	3
事業領域の拡大へ:民間部門	4
世界のニーズに応える:国際部門	5
衛星による新たな領域:衛星部門	6
将来に向けたパスコの優位性:トピックス	7
財務報告	9
会社の状況	11

株主の皆さまには益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第61期(2008年4月1日から2008年9月30日まで)の事業概要をご報告申し上げます。

今後とも引き続き株主の皆さまの一層のご支援とご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

代表取締役社長 杉本 陽一



## トップインタビュー

### 円高の影響と 今期の業績について

今期の通期売上目標値42,000百万円、営業利益1,800百万円、純利益1,200百万円の達成に向けて、生産改革を進めるとともに、事業領域の拡大に努めてきました。その結果、公共、民間、海外の各部門とも前中間期と比較して増収となり、今期の連結売上高は前年同期比11.5%増の15,684百万円になりました。

当社売上高の70%以上を占める公共部門は、国や地方政府の単年度予算の影響を受けて、納期が年度末に集中する傾向にあります。そのため当社は、中間期は損失を計上するものの、期末に向けては収益が増加する、言わば季節によっての変動性が高い事業形態といえます。こうした事業環境にあって、当中間期の損益は前年同期に比べ、営業損益は839百万円の改善、純損益も487百万円の改善と計画値の達成に向けて順調に推移しています。

Q1

円高の影響について述べますと、当社事業の海外部門への影響が懸念されます。しかし、海外部門の売上げは全体の約7%相当のため、現在のところ当社全体に与える影響は、軽微と判断しています。

Top Interview

### 世界的な自然災害に備える 今期注目の衛星事業について

従来の航空機による測量には、天候や時間などによっては撮影ができないという物理的な制約がありました。この課題を開拓するため、当社では昨年12月からドイツの合成開口レーダー衛星「TerraSAR-X」の国内独占販売権と世界への販売権を取得し、その運用を開始しています。

5月に発生した中国・四川大地震や6月に発生した岩手・宮城内陸地震、また8月に発生した愛知豪雨による洪水被害において、当社ではこの衛星を活用した緊急撮影と情報提供を行いました。中国・四川大地震においては、地震によって広

Q2

範囲に発生した被害の特定と二次災害防止のためのコンサルティングを、岩手・宮城内陸地震においては荒砥沢近辺の時間と共に変動する地盤の分析と情報提供を、また愛知豪雨では集中豪雨の最中に岡谷近辺の浸水箇所の特定と情報提供を行うなど、被害箇所の特定と災害復旧の初動段階での情報提供に高い撮影能力を発揮しました。当社ではまた、これらの実証結果をもとに9月から日本国内の都市型地震に備えるため、三大都市圏と仙台市の撮影を開始しています。万が一の災害時に、迅速・正確に被害と被災箇所を分析・特定し、いち早く関係各署に提供することで、皆さまがたの安全や安心の確保に努めてまいります。

また今年は、「宇宙基本法」が成立、施行され、いよいよ日本でも宇宙時代が本格的に始まります。当社は衛星データの受信から撮影データの高度な加工・処理までを一貫して行うことのできる世界的にもまれな企業であり、また当社従来の航空機を使った撮影で蓄積した技術も衛星分野で大いに活用できることが見込めます。私たちは日本の新たな宇宙時代を、衛星データの受信・処理・加工とその利活用の分野で担っていく所存です。

Q3

### 株主還元策と 復配の計画について

今後の財務戦略上の柔軟性と機動性を高めることを目的として、第60回定時株主総会においてご決議いただき、欠損填補を行いました。

今期の業績が計画値どおりに達成できれば、復配も視野に入ってきます。

復配の実現に向け、今期の目標達成に鋭意努力してまいる所存です。

Q4

### 需要が高まる空間情報と パスコの将来ビジョンについて

当社のビジネスモデルは官公庁向けの公共測量だけではありません。日本国内外の地理情報を、衛星や航空機、特殊な車両や微細なICタグなどで収集し、お客様のニーズに合わせて処理した上で、必要な情報を附加した空間情報として提供することが、私たちのビジネスモデルです。そしてこの空間情報に対する需要は世界的に高まっています。

カーナビゲーションの世界的な広がりは空間情報やその利活用への関心を高めています。資源国や新興国で、経済発展の基盤となる国土基本図の整備や都市計画などの需要が高くなっています。また災害や環境問題への世界的な関心の高まりも空間情報の需要を高めています。このような世界規模での空間情報への需要に共通しているのが、精度の高さと利活用のノウハウです。

当社は空間情報の精度と利活用の分野において、世界最高の技術力と実績を有しています。当社では既にEU、タイ、フィリピン、インド、中国で拠点を開拓し活動をしていますが、近い将来は中近東、南米、アフリカでの活動も視野に置いています。日本発の技術で世界一の空間情報企業となること、これが私たちの将来ビジョンです。

パスコは日本発の空間情報産業により、世界の人々の、豊かな国民生活の基盤情報の構築、安全と生命を守るために空間情報サービスの提供に邁進します。

今後も株主の皆さまの一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

## 公共部門

創業以来、国や地方自治体などへ空間情報を提供し、多くの実績と経験を積んできた部門です。  
常に移り変わるニーズを先取りし、空間情報サービスの新しい分野を切り開いています。

### 全国あなたの街の情報を配信 「わが街ガイド」

Public Division 1

わが街ガイドは、インターネット上の地図を使って身近な情報を得ることができる、パスコの空間情報サービスです。2002年のサービス開始以来、セキュリティー事故ゼロという信頼性と、安定した稼働には定評があり、全国の地方自治体をはじめ100以上のサイトで採用されています。

わが街ガイドは、公共施設や観光ガイドマップ、バリアフリー マップ、道路工事情報や交通事故情報マップ、犯罪発生マップなど、それぞれが地域密着型の情報発信に活用されています。

右の図は平成20年8月現在稼働中の、代表的なサイトをご紹介したものです。公開情報の種類に応じたインターフェースを用意し、誰にでも使いやすく、見やすいサービス提供に努めています。

### 電子タグが 快適で安全な生活を実現する

Public Division 2

スーパーの店頭に並ぶ農作物や食品の生産者情報を確認できたり、商品の盗難防止の働きをしたりと、電子タグの普及は私たちの生活に快適と安全を提供してくれています。

パスコは、この電子タグ技術がもたらすユビキタス社会

Public Division

の実現に向けて、技術の習得から応用、新しいサービスの創造に努めています。

このほどパスコでは、空間情報とユビキタス技術を融合させたダムの施設管理業務システムを完成しました。私たちの生活用水の確保や発電、防災の機能を担うダムの施設管理に電子タグを活用することで、広大な空間と大量の機材で複雑化する管理業務の効率化と安全性の向上を図っています。そして本成果は国土交通省事務所長より表彰を受け、高い評価をいただきました。

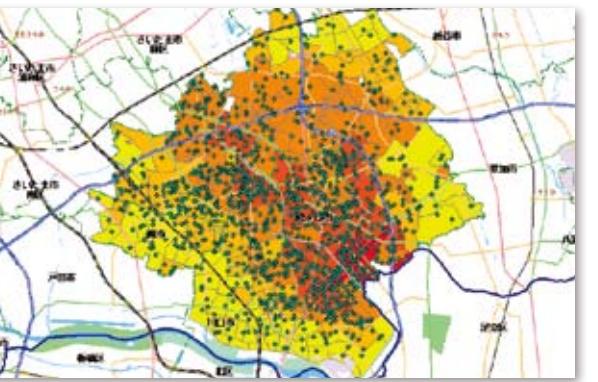


左／詳しくは弊社ホームページからご覧ください  
下／ユビキタス技術で施設管理を行うダム全景



## 民間部門

パスコの空間情報サービスを民間企業向けに提供している部門です。  
本部門は設立から5年ほどですが、現在では50億円を超える部門に成長しました。当社の重要な成長部門として今後も注力していきます。



### “地域を知る” エリアマーケティング

Private Division 1

私たちが暮らす街には、多種多様なお店がありますが、それぞれの地域のニーズに合った店舗が軒を連ねています。それは、そこに出店する企業が、地域を主体とした市場分析（エリアマーケティング）を行った結果なのです。

企業にとって、“地域を知る”ということは、出店戦略を考える上でとても重要です。対象とする地域にはどれだけの人が住んでいて、年齢構成はどうなのか、単身者は多いのか、ライバル店はどれくらいあるかなど多岐にわたるデータを収集し、分析をしながら地域特性を読み取っていきます。パスコではこうしたさまざまな地域データを処理し、分析する仕組みを提供し、皆さまの快適さと便利さを支えています。

### 物流業界を陰で支える パスコの技術

Private Division 2

新規参入業者の増加による競争の激化など、物流業界を取り巻く環境は年々厳しくなっています。さらには、CO<sub>2</sub>の排出制限や安全対策の推進、配送の効率化など、取り組むべき課題が山積しています。

その一方で、物流業界はユーザーにとって便利なサービスを提供しています。例えば、受け取れなかった荷物を都合の良い時間に届ける再配達サービスや、発送した荷物が現在どこにあるかを知らせるサービスなどがあります。

パスコは空間情報を用いて、物流業界が抱えるコスト削減や配送の効率化などの課題解決、顧客サービスの向上を支援しています。皆さまが便利と感じるサービスのうしろでも、パスコの技術はいきているのです。



お客様サービスの向上

**国際部門**

空間情報の整備を必要としている国々に、パスコの空間情報サービスを提供する部門です。

パスコグループの海外拠点をいかして世界各国のニーズに直接、迅速に対応しています。今後、さらなる成長を目指します。

**世界で事業を展開**

International Division 1

パスコはこれまで、国際市場での競争力を高め、また技術優位性を発揮するために国際的なネットワークの構築と各拠点の組織づくりに力を注いきました。世界各国には空間情報に関するさまざまなニーズが存在しています。経済発展を遂げるために必要となる基盤情報の整備から、土地利用計画や都市計画、防災計画など規模の大きな国際案件が多数発生しています。これら世界のニーズに対応することがパスコの重要なテーマです。

**国際的な営業ネットワーク  
: フィンマップ**

International Division 2

欧州、東・北アフリカ、中米、東南アジア、中東などに営業チャネルを持つフィンマップ(FINNMAP)は、パスコグループの技術力を世界のニーズに対していかすために、重要な役割を担っています。



フィンマップオフィス外観



フィンマップのメンバー

International Division

フィンマップは1951年に設立、2004年にパスコグループに加わりました。フィンランドを本拠地に、トルコ、ラオスに子会社を、カンボジア、タイ、ネパールにプロジェクトオフィスを所有しています。

フィンマップの広域な営業ネットワークとパスコグループの技術力が一体となって、世界に挑んでいます。

**世界の地図工場  
: パスコ・タイ、パスコ・フィリピン**

International Division 3



タイ・フィリピンの地図工場

日本の高い品質を低成本で世界へ提供する地図工場——パスコ・タイ(PASCO Thailand)とパスコ・フィリピン(PASCO Philippines)は国際市場での競争力を高めています。

タイでは300人、フィリピンでは450人の現地採用技術者が、それぞれ3交代制で常時勤務し、日本人管理者のもと、品質の高い2次元・3次元地図データを生産しています。こうした体制によって、日本ブランドの高品質なデータ整備力と国際市場での価格競争力を両立しています。

**衛星部門**

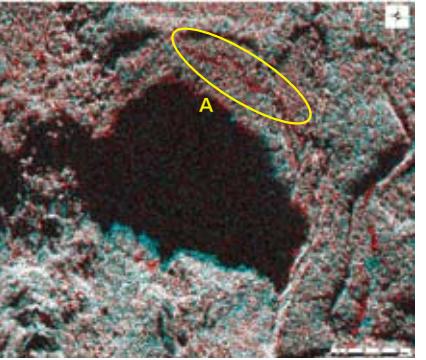
2007年12月から運用を開始した「TerraSAR-X」など、さまざまな衛星を活用する新規事業部門です。世界中の環境・災害モニタリングをはじめとした、従来とは異なる空間情報サービスの創出に努めます。

**岩手・宮城内陸地震で  
地盤変動をキャッチ**

Satellite Division 1

2008年5月12日に発生した中国・四川大地震では、「TerraSAR-X」による緊急撮影を実施し、その撮影データをもとに、すぐさま被災状況の把握に着手しました。そしてその成果は、中国政府から高い評価をいただきました。

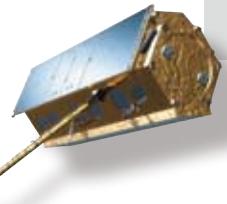
また6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震においても、災害発生後から複数回にわたり撮影、それぞれの撮影データを比較・分析して、地盤の変動をとらえています。

**愛知豪雨で  
浸水域の抽出に成功**

Satellite Division 2

2008年8月29日の愛知豪雨では、「TerraSAR-X」の撮影により幸田町の堤防決壊による浸水域を明らかにしました。

8月30日午前6時の撮影時、現地は雷雲が発生し、雨が降り続いていましたが、雲を透過し、夜間でも撮影可能な合成開口レーダーを用いるため、撮影に影響はありませんでした。「TerraSAR-X」の持つ高い撮影能力が実証された事例といえます。



Satellite Division

Satellite Division 3

平時の地形を撮影しておくことで、災害発生した際の緊急撮影データとの地形比較ができ、迅速的確な被災状況の把握が可能です。

また、平時は公共施設、鉄道や幹線道路、発電所やコンビナートなど重要施設周辺の地形変動をモニタリングし、国、地方自治体や企業へ地殻変動の情報を提供します。

## 衛星事業を躍進させる データ受信局開設（沖縄県糸満市）

合成開口レーダー衛星「TerraSAR-X」の撮影データを受信するために開設した本施設は、アジア圏唯一の「TerraSAR-X」用受信局で、世界的にも重要な役割を担っています。

人工衛星は、地球を周回しながら絶えず撮影を行っています。撮影データは衛星内に蓄えられますが、それを地球上で受け取るには、受信局の受信可能エリアに衛星が入らなければなりません。そのため、効率よく衛星を運用するには、地球上に最適に配置された受信局が必ず必要になります。

パスコの受信局は、現在運用中の「TerraSAR-X」のほか、今後打ち上げが計画されている衛星「TanDEM-X」や「TerraSAR-X2」のデータ受信にもその能力を発揮し、パスコの衛星事業の躍進に欠かせない重要な施設として、大きな役割を担っています。

## 次代を担う 空間情報総括監理技術者

社団法人日本測量協会が2005年に創設した「空間情報総括監理技術者資格」の有資格者は、国土交通省が定める「測量上級主任技師」（業界最上位資格）の職種と同等クラスの技術者として認定されています。2008年現在の有資格者数90人のうち、32人がパスコの社員です。さらに当社に



は、次年度以降の受験要件を満たす人材が控えており、今後も空間情報総括監理技術者資格の取得に積極的に取り組んでいく所存です。

空間情報は社会の基盤となる重要な情報です。広い知識と豊かな経験を持った技術者は、そのスペシャリストとして、空間情報の利活用に能力を発揮していきます。

将来的には、空間情報総括監理技術者資格が、技術士のように国土交通省や地方公共団体などが計画する空間情報関連事業を担う必須条件（資格）となることが期待されます。

Topics 1

## パスコ公式ホームページを完全リニューアル コンセプトは「情報検索のしやすさ」と 「見やすさ」の向上

Topics 3

2008年8月、パスコ公式ホームページを一新しました。今回のリニューアルにあたり目指したのは「情報検索のしやすさ」と「見やすさ」です。新しくなったホームページにアクセスしてぜひご確認ください。

### プロモーションエリア

今回のデザインでは、トップページの上部に動画領域を設定し、話題の情報を月替わりでご紹介しています。パスコのホームページを訪問いただいたお客様に、旬な情報や話題の情報を視覚的に提供するのが、この「プロモーションエリア」の役割です。

### 株主の皆さまへ

「パスコについて」をクリックすると、スムーズにIR情報へアクセスしていただけます。決算発表関連の資料や、皆さまのお手元にお送りする株主通信のバックナンバーなども、こちらでご覧いただけます。

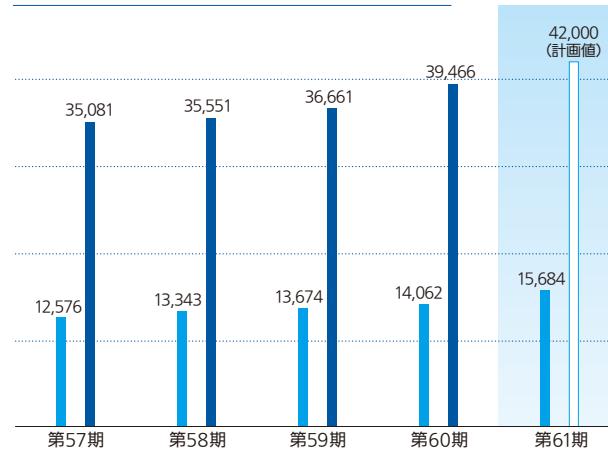
### サービス・製品一覧

パスコの多岐にわたる業務内容を効率よくご覧いただくため、「測量・地理データ販売」「経営・政策」「管理・マネジメント」「環境・防災」と4つのカテゴリに分けて紹介しています。各カテゴリのサービスや製品を一覧することで、目的の情報へ素早くたどり着けるようにしました。

### 災害緊急情報

社会貢献活動の一環として「災害緊急情報」のページを充実させています。日本国内を中心として、地震や台風などの自然災害が発生した際に、衛星や航空機を使って被災状況の迅速な把握に努めています。この公開情報は、テレビや新聞など報道関係や学術関係のかたがたにも活用いただいています。

## 財務ハイライト

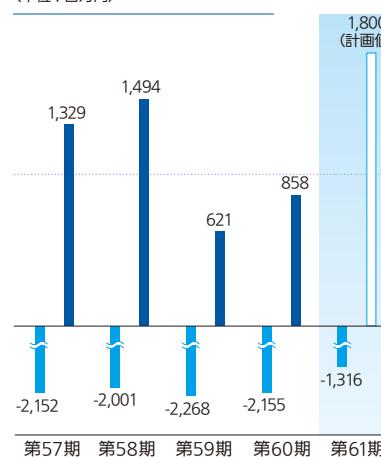
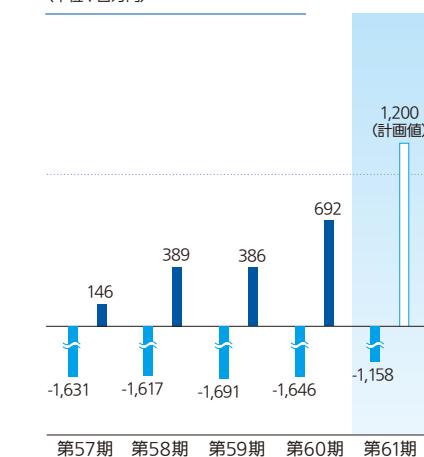
売上高  
(単位:百万円)

## 事業形態の特徴

当社売上げの70%以上を占める公共部門は、国や地方自治体などの単年度予算の影響を受けて、納期が年度末に集中する傾向にあります。そのため受注は上半期に、売上げは下半期に偏り、中間期は損失を計上するものの、期末に向けては収益が増加する、季節変動型の事業形態といえます。

## 当中間期の状況

当社グループの売上高は前年同期比1,621百万円(11.5%)増加の15,684百万円となり、営業損益は前年同期比838百万円(38.9%)改善し、1,316百万円の損失、経常損益は前年同期比で771百万円(33.2%)改善し、1,550百万円の損失、四半期純損益は前年同期比487百万円(29.6%)改善し、1,158百万円の損失といずれも利益率が向上しています。

営業利益  
(単位:百万円)経常利益  
(単位:百万円)当期純利益  
(単位:百万円)

## Financial Highlights

## 財務諸表

連結貸借対照表  
(単位:百万円)

科目	当四半期 2008年9月30日現在	前四半期 2007年9月30日現在	前期 2008年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	27,215	24,967	39,246
固定資産	16,949	17,644	17,518
繰延資産	0	0	0
資産合計	44,165	42,613	56,765
<b>負債の部</b>			
流動負債	30,054	27,959	40,877
固定負債	5,163	6,577	5,720
負債合計	35,217	34,536	46,597
<b>純資産の部</b>			
株主資本	8,514	7,346	9,680
評価・換算差額等	256	442	169
少数株主持分	177	288	318
純資産合計	8,947	8,077	10,168
負債純資産合計	44,165	42,613	56,765

## Financial Information

## Financial Statements

連結損益計算書  
(単位:百万円)

科目	当四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前四半期 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	前期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	15,684	14,062	39,466
売上原価	13,286	12,552	30,926
売上総利益	2,398	1,510	8,539
販売費及び一般管理費	3,715	3,665	7,198
営業利益	△ 1,316	△ 2,155	1,340
営業外収益	105	120	355
営業外費用	339	286	838
経常利益	△ 1,550	△ 2,321	858
特別利益	40	52	43
特別損失	96	79	187
税金等調整前四半期(当期)純利益	△ 1,607	△ 2,348	714
法人税、住民税及び事業税	60	52	134
法人税等調整額	△ 496	△ 699	△ 131
少数株主利益(損失△)	△ 13	△ 56	19
四半期(当期)純利益	△ 1,158	△ 1,646	692

連結キャッシュ・フロー計算書  
(単位:百万円)

科目	当四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前四半期 2007年4月1日から 2007年9月30日まで	前期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,440	8,337	75
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 627	△ 1,339	△ 1,782
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,354	△ 7,835	1,696
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 22	15	△ 40
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	1,436	△ 822	△ 50
現金及び現金同等物の期首残高	5,729	5,847	5,847
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 64	—	△ 67
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,101	5,025	5,729

## 会社概要

会 社 名	株式会社パスコ
証 券 コ ー ド	9232
住 所	東京都目黒区東山1-1-2
設 立	1949年7月15日
資 本 金	8,758,481,700円
事 業 内 容	衛星・航空・地上測量、空間情報サービス、GISソフト販売、土木設計、環境調査・アセスメント、道路調査、地質調査、文化財調査、補償コンサルタント

## 役員

代表取締役社長	杉 本 陽一
取 締 役	藤 田 稔
取 締 役	岩 松 俊 男
取 締 役	植 本 輝 紀
取 締 役	岩 館 隆
取 締 役	納 宏
取 締 役	安 住 修 二
取 締 役	笹 川 正
取 締 役	西 本 利 幸
常 勤 監 査 役	植 圏 弘 良
常 勤 監 査 役	荒 田 直 行
監 査 役*	吉 村 皎 三
監 査 役*	加 藤 幸 司

※は社外監査役

## 株式データ

発行可能株式総数	200,030,995株	
発行済株式の総数	73,851,334株	
株主数	11,369名	
大株主	持株数(千株)	出資比率(%)
セコム株式会社	51,584	69.84
日本トラスティ・サービス	986	1.33
信託銀行株式会社	564	0.76
株式会社東京放送	500	0.67
三菱UFJ信託銀行株式会社	451	0.61
株式会社三菱東京UFJ銀行	432	0.58
パスコ社員持株会	370	0.50

注) 持株数は千株未満切り捨て、出資比率は小数点第3位以下切り捨て。  
当社は自己株式1,341千株を保有しています。

## 株主メモ

事 業 年 度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年6月
剰余金配当の基準日	毎年3月31日
株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 ☎0120-232-711
公 告 方 法	電子公告により行います <ホームページアドレス> <a href="http://www.pasco.co.jp">http://www.pasco.co.jp</a>

表紙画像について: 国勢調査・基本単位区分集計のデータを基に当社が独自に推計した50mメッシュ単位の人口データです。

50mメッシュ内の人団が多い箇所を赤色、少ない箇所を青色で示しています。